

## 1 提案の概要

付けたい力：2つの動物の説明を比べて読み、似ているところや違うところを見つけて共有することができる力を育てる

### (1) 主張点

- ・ 児童が見通しをもって主体的に学習に取り組めるよう、『比べる思考操作』を段階的に取り入れた単元を構成する。
- ・ 単元への豊かな導入、学習のめあてが児童のものとなるような学習計画を立てることで、思考の深まりがある授業の積み上げを目指す。
  - ① 関心を高める手立て
  - ② 理解を深め、思考を促す手立て
  - ③ より思考を深める手立て
  - ④ 学びを見取る手立て

### (2) 具体的な実践

#### ① 関心を高める手立て〔一次〕

- ・ 本の読み聞かせ…朝の時間に、「どうぶつの赤ちゃん」シリーズの本の読み聞かせを行った。動物への興味を高めるだけでなく、敵対する動物について多面的に考える(比べる)きっかけになり、学習へのよい意識付けとなった。
- ・ 動画…本文に登場する動物についての動画を視聴する時間を設定した。「なぜこんなことをするのだろう？」と疑問を児童から引き出すことができた。
- ・ 扉絵のライオンの写真…扉絵の写真について、これまでの知識・経験から想像したり、単元名とつなげ、子育てをする動物の話が始まるという予想をもったりすることができた。

#### ② 理解を深め、思考を促す手立て〔二次〕

##### ○ 本文の内容理解を深めるための操作活動

- ・ 動作化…本文から読み取った動物の知恵について全体で確認するために動作化を行った。動物の動きを確かめるだけでなく、保護色を使う動物の知恵について実感を持った理解を深めることができた。
- ・ ペープサート…敵の動物の動きも考えることで、知恵を使うことのよさに気付く児童も見られた。動作を正しく理解できたことで、動物同士の行動を自然と比べ、動物の知恵の共通点や相違点が見付けやすくなった。

##### ○ 思考を可視化するための操作活動

- ・ 表の作成…思考を整理することを目的とし、児童の書くことへの負担を軽減するために、観点ごとに書かれたカードを使用した。児童はこれまでのワークシートを振り返り、表のどこに当てはまるか思考する姿が見られた。
- ・ 表を使った比較…作成した表を用いて、共通点と相違点を見付け、色分けして示す活動を行った。また、考えの根拠となる記述に線を引き、理由を書き足した上で、ペアや全体での発表を行った。同じ・違うという単なる意見の違いだけでなく、同じ叙述を根拠としていても人によって捉え方・考え方が異なることに気付くことができた。

### ③ より思考を深める手立て〔三次〕

- ・ 思考のズレを生かした対話を仕組むためのステップアップの課題…学んだ力を活用する場として、別の動物について、二次と同じ構成の表に整理する活動を設定した。「ナイルワニ(くわえて運べないところが本文の動物と共通する)」「ハシビロコウ(動物でなく日差しが敵になるという新しい視点がある)」から選び、本文に合わせた構成で書かれた教員自作の資料を用いた。別の動物でも、共通点や相違点を見付けることができ、交流を通して友だちの意見から多面的・多角的に考えを広げることができた。

### ④ 学びを見取る手立て〔四次〕

- ・ 自作の評価テスト…興味関心をさらに広げるために本文と同じ構成で書かれたシマウマの資料を作成・使用した。その結果、ほとんどの児童が本文の内容から問われていることを読み取ることができた。また、初めて読む文章であっても、組み立ての規則性に気づき、キーワードを探し出すことができた。

## 2 成果

- 学習前の読み聞かせや動画の視聴によって、動物に対する興味関心を高め、「いろいろな動物のことが知りたい」と意欲的に学習に取り組むことができた。
- 動作化やペープサートを取り入れることで、楽しみながら学習に取り組めた。新たな気づきを得られ、全体での共有や理解を深めることにつながった。
- 正解のない問いに児童はのびのびと取り組み、自分と友だちの考えを比べたり、違いを認めたり、考えを変容させたりすることができた。
- グループ活動を行うことで、考えに自信をもって全体交流に臨んでいた。
- 本文以外の動物について、教員の自作教材を用いて表にまとめる活動をしたこと(同じ構成の新しい課題に取り組んだこと)で、見やすく比べやすいという表のよさを実感する児童が多く見られた。
- 一般図書では、教科書と構成が異なり、特に低学年での調べ学習は難しいことが多い。教員自作の教材や資料を用いることで、教員のねらいがより明確になり、児童の学びがすっきりと整理された。また、他の動物への興味を高められたことで、他の本も読んでみたいという読書意欲にもつながった。
- 教材を作る際に、意図をもって動物を選んだことや、文章やワークシートの構成を同じにしたことで、児童が比べやすくなり、使いやすなものとなった。ワークシート同士を並べて考える児童の姿は、主体的に学びに向かう姿だと言える。
- 評価テストにより、児童一人一人の学びを見取ることができた。

## 3 課題

- 使用したワークシートに、本文の叙述を書き写さなければいけない箇所が多くあったため、文字を書くことに苦手意識のある児童にとっては困難さを感じるものになった。ねらいに基づいたワークシートを使用すべきだった。
- 自分の考えが書けても、発表したり伝えたりすることに苦手意識をもつ児童には、スモールステップで自分の考えに自信がもてるような支援が必要である。
- 児童の興味関心や学んできたことを大切にして、評価テストの問いを設定できるとよかった。同じところを見付ける問いのみを設定していたが、より深い気づきを見取るためには、違いを見つける問いも有効だったと考える。